

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新元浜寮	階数	地下0階地上5階
建設地	愛知県東海市元浜町12-5の一部	構造	RC造
用途地域	準工業地域、指定なし	平均居住人員	400人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年2月 予定	評価の実施日	2023年1月26日
敷地面積	15,991 m ²	作成者	佐野康弘
建築面積	2,676 m ²	確認日	2023年1月26日
延床面積	9,494 m ²	確認者	佐野康弘



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 65%
③上記+②以外の 65%
④上記+ 65%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.0

項目	スコア
音環境	2.3
温熱環境	2.4
光・視環境	3.4
空気質環境	3.7

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.7

項目	スコア
LR1 エネルギー	3.9
LR2 資源・マテリアル	3.6
LR3 敷地外環境	3.5

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>8.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)新元浜寮

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	2.6	2.6	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり				-	-	-	2.2	2.2	0.50	
	1 階高のゆとり			-	-	-		3.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ			3.0	-	-		1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	-	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
	1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
	2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
	3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
	4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
	5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
	6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	周辺のまちなみ・景観に対して標準以上の配慮がされている	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	4.0	0.30	-	-	-	4.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	地域性・アメニティへの配慮に関して充実した取り組みがされている	-	5.0	0.50	-	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			外皮は、UA値はZEH基準、ηACちは等級4相当を満たしている	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	2.0	0.17	-	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.89	3.0	4.2	0.33	-	-	-	4.2
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
	4.1 モニタリング			-	3.0	0.50	-	-	-	
	4.2 運用管理体制			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.6
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
	1.1 節水		節水コマなどに加え、省水型機器を用いている	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00	-	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.8	0.63	-	-	-	3.8
	2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07	-	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	ビニル床シート(倉庫床)、ビニル床タイル(食堂)、600角タイル(ENT床)	3.0	5.0	0.20	-	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	独自	内装が乾式工法で分別容易、PS・天井内配管により設備との錯綜を回避	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68	-	-	-	
	1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0.01未満かつGWP(100年値)が50未満の発泡剤を用いた断熱材等を使用	-	4.0	0.50	-	-	-	
	3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率65%	-	4.4	0.33	-	-	-	4.4
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.2	0.25	-	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
	3 交通負荷抑制	独自	駐輪場(バイク置場含む)、駐車場及び管理用車両の駐車施設を確保、バス利用可能	-	5.0	0.25	-	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
	1 騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
	2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	
	3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
	1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
	2 砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
	3.3 光害の抑制			0.2	4.4	0.20	-	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満たし、広告物照明無し	-	5.0	0.70	-	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート
(仮称)新元浜寮

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			4.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.4	0.10
② 資源の有効活用			3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19
③ 敷地内の緑化			2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09
			外構緑化:8.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)新元浜寮

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・プレキャスト鉄筋コンクリートを使うことで廃材の減少、工事車両の減少等、環境に配慮された構造物である
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・UA値はZEH基準、η AC値は等級4相当 ・F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、室内環境に配慮
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理に配慮した計画
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・シラカシ、クスノキ等の自生種を植樹 ・植栽により良好な景観を形成している
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・潜熱回収型給湯器、LED照明設備を採用
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・ODP=0、GWP=50未満の発泡剤を用いた断熱材を使用
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルCO2排出率を参照値より抑制
その他	